

第2学年 生活科 学習指導案

1. 単元名 「風ってすごいぞ！友だちだ！」

2. 単元について

学習指導要領では、生活科の内容（6）として、「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」と記されている。

子ども達は、風によって物が動いたり飛んでしまったりすることは、よく目にしている。身近な自然である「風」を使ったおもちゃ作りを通して、自然のもつエネルギーの不思議さやおもしろさに気付くとともに、友達と楽しみながら遊びを創り出すことをねらいとしている。

そこで、まず風への興味付けとして様々な事象を見せたり、学校内の風探しを行ったりすることで、風を身近に感じられるようにする。そして、そこでの気付きを基におもちゃ作りへとつなげていく。おもちゃ作りでは、自己の思いや願いを実現するために、日常生活にある様々な物の中で材料を自ら用意させる。そして、試行錯誤を繰り返しながら、遊び自体や遊びに使う物を工夫してつくすることで、遊びのおもしろさに気付くことができるようにする。その過程で失敗することがあっても、次に繋がる工夫を見つかったり、問題を解決する方法を進んで探っていけたりできるようにしたい。

単元を通して伝え合う場、教え合う場といった関わり合いの場を設けることで、友達のよさや自分との違いに気付いたり、遊びを創り出す楽しさや一緒に遊ぶ楽しさにも気付いたりできるようにしていきたい。また、約束やルールが大切なことや、それを守って遊ぶと楽しいことなどにも気付かせていきたい。

単元の終末には、1学期実践の「くるくるこまランド」と同様に1年生との交流の場を設け、再度異学年と交流することの良さに気付くとともに、さらに喜んでもらうための方法を考えることで自分自身の成長も感じられるようにしたい。

3. 子どもの実態

子ども達は、1年生の時に「昔遊び」の学習でたこあげやシャボン玉を飛ばす活動も体験している。既習を生かしながら、「風によって物が浮いたり、動いたりすること」について気付かせていきたい。2年生になってからは「くるくるこまランド」の学習で1年生に自分たちで作ったものを体験してもらったり、作り方を教えたりすることで活動を深めることができた。風の力を体験し話し合いをしていく中で、誰かに伝えることや教えることの良さを改めて実感することを大事にしながら単元を構成していきたい。

1. 自分でおもちゃを作ったことがありますか

けっこうある…28名 少しある…26名 あまりない…12名 ない…31名

（主に作ったことのあるおもちゃ）

こま けん玉 ヨーヨー 剣・刀 人形 マラカス 箱のおもちゃ
ダンボールで作るおもちゃ 等

2. 自分でおもちゃを作ることは好きですか。

好き…38名 どちらといえば好き…29名

どちらかといえば好きではない…12名 好きではない…18名

（主な好きな理由）

作りたいものが作れる 楽しい 発見がある 自由に工夫できる 工作が好き 等

（好きでない理由）

少し大変 めんどくさい 材料集めが大変 つまらない 難しい 等

3. 「風」と聞いてどんなことをイメージしますか。

（主なイメージ）

すずしい さむい さわやか 台風 たつまき 扇風機 うちわ ヒューヒュー
葉っぱが飛ぶ・落ちる 落ち葉の競争 葉っぱのダンス 帽子が飛ばされる 等

4. 風で遊んだことはありますか。

ある…14名 少しある…15名 あまりない…7名 ない…61名

（主にどんな遊びをしたか）

たこあげ 風船 シャボン玉 紙飛行機 風と鬼ごっこ 風車 竹とんぼ ウインドカー
扇風機で「あーっ」とする 等

5. 風のおもちゃで遊んだことはありますか。

ある…18名 少しある…9名 あまりない…9名 ない…61名

（主にどんなおもちゃで遊んだか）

風車 たこ こま 車のおもちゃを動かす 風船 空気の実験セット
風を向けるとクルクル回るおもちゃ 風で風船を浮かせる 等

6. 風について知っていることや知っているものを書きましょう。

扇風機　うちわ　シャボン玉　たこあげ　風車　クーラー　寒い風　熱い風　つめたい
葉が揺れる　気持ち良い　風が吹く　すずしい　台風　たつまき　風で雲の動きが変わる
風にあたると音が聞こえる　つかめない

7. 1年生とのおもちゃランドをまたやりたいですか。

やりたい…63名　　どちらかといえばやりたい…14名

あまりやる気が出ない…10名　　やる気が出ない…10名

(主なやりたい理由)

1学期のこまランドが楽しかったから　1年生に教えたい、楽しんでほしい

一緒にやるとうれしい、笑顔になる

(主なやりたくない理由)

作るのが大変　準備が大変　はずかしい　おもちゃを作れない　めんどくさい

アンケートの結果から、風で遊んだことや風の力を使ったおもちゃを体験している子が少なく、「風」を身近に感じている子があまりいないことが分かった。しかしその中で、1年生の時に体験した、たこあげや、シャボン玉を飛ばしたことをアンケートに記入している子がいる。既習を共有し、風についてのイメージを広げながら、まずは風が身近なものであることに気付かせていきたい。また、おもちゃを作ることに肯定的な意見をもつ子が多いため、1学期実践同様、考えや工夫の共有を生かして単元を進めていきたい。一方でおもちゃ作りへの否定的な意見として、「少し大変」「材料集めが難しい」「作るのが難しい」という意見もある。こうした思いをもつ子に対して、友達からのアドバイスをもらいやすい場を設定したり、おもちゃの作り方をタブレットの機能で確認できるようにしたりする。そして作ることに前向きな気持ちをもたせ、自分の願いを叶えられるような活動を目指していきたい。

子ども達は1学期実践の「くるくるこまランド」の活動に対して「楽しかった」「また1年生に教えてあげたい」という思いをもっている。前向きな思いを大切にして、今回も単元の最後には1年生との交流を予定している。1学期と同様に、またはそれ以上に、異学年との交流の良さに気付かせ、子ども達の学びが深まるようにしていきたい。

4. 研究の視点と手立て

<生活科>

①やってみたいという気持ちを引き出せるような教材や事象提示の工夫

- ・導入の工夫
- ・目的意識がもてるような素材の準備（自分の願いをもって取り組めるように）
- ・諸感覚（見る・聞く・触れる・かぐ・感じる・なぜ？など）を意識して活動できるような支援

②伝えたいという気持ちを引き出せるような表現活動の工夫

- ・実物を見ながら考えをまとめる場の設定
- ・友達の考えと比較する話し合いができるような場の設定
- ・見つけたことや気付いたことをかきたくなるようなワークシートの工夫

③友達とのかかわりを通して、自分の成長や友達の成長に気付かせる手立ての工夫

- ・友達と一緒に試したり、遊んだりすることができる場の設定
- ・思いや願いを共有し、互いに学び合える関係づくりの支援
- ・単元の振り返りの中で、互いに気持ちを伝え合う場の設定

5. 教師の願い

1年生の時にみんなで「しゃぼん玉」と「たこあげ」に触れた。「しゃぼん玉」ではしゃぼん玉が浮き風で飛ばされる様子を見たり感じたりする経験、「たこあげ」ではたこを作り、外で飛ばすなどの風遊びの経験はあるが、子ども達にとって目に見えない風はあまり身近に感じていない。そこで、自分の思いや願いを実現させながらおもちゃを作ることや遊ぶことを通して、風遊びの楽しさに気付かせたい。

身近なものを使ったおもちゃ作りの学習は、「くるくるこまランド」で何度も活動を行ったため、子ども達がそれぞれ自分の思いや願いを基にしたおもちゃを作ることには慣れてきた。この単元では、1つのおもちゃ作りだけではなく、人それぞれ違ったおもちゃを作ること、友達のおもちゃとの共通点に目を向けたり、活動の中で友達と話したり、ワークシートに書いたり表現することで無自覚だった気づきを自覚させられるようにしたい。そしてそれが、より明確に子どもが考えをもつことにつながると考える。また、伝え合い、交流することにより一つ一つの気づきが関連付けられていく。そこで、作品の作り変えや教え合いのために、友達との関わりの場を意図的に設定したい。より良いものを作ろうと予測し、予想をしたり、友達の良さや自分の考えとの違いを認識したりしておもちゃを創り出す面白さ、一緒に遊ぶ楽しさを味わわせていきたい。こうした工夫や試行錯誤を繰り返すことで、子ども達は、思考力、学びに向かう力を身に付け、それが自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりしようとする意欲や自信につながると考える。

そして、作品について誰かに伝えたいという思いをもち、伝える相手のことを考えながら主体的に計画や準備をしたり交流したりする活動を通して、交流する楽しさを感じ、達成感や成功体験を味わわせたい。

6. めざす子ども像とのかかわり

知的・好奇心あふれる授業の創造 ～自分の願いをもってともに活動する子を育てる手立ての工夫～

(1) 低学年部会のめざす子ども像

自然や身の回りの事物・現象に興味・関心をもち、事実をしっかりと見つめ、「見つける」
「比べる」「たとえる」ことができる子。

(2) 単元でめざす子ども像

- ・ 1年生に風のおもちゃの遊び方をわかりやすく伝えることができたよ。
- ・ 友達と協力しながら計画や工夫をしたから、風おもちゃがパワーアップしてよかったよ。
- ・ 1年生に喜んでもらえて、うれしかったよ。

○事実（結果）

◎考察（考えたこと）

活動

- ・ 友達と協力して、風っ子フェスティバルをすることができて楽しかったよ。
- ・ 1年生にすごく喜んでもらえてうれしかった。

- ・ 風っ子フェスティバルを準備し、友達や1年生と交流する。

- 1年生に、おもちゃの遊び方を工夫して伝えることができたよ。
- ◎ ルールや紹介の仕方を工夫すると、相手に伝わりやすくなるんだね。

- ・ 風の車が作れたよ。
- ・ もっとパワーアップさせたいな。
- ・ 友達のアドバイスでうまく作れたよ。
- ・ 1年生にも作り方を教えたいな。

- ・ オリジナルのおもちゃを工夫して作る。

- 友達と協力して風の力のおもちゃが作れたよ。
- いろいろな風のおもちゃをみんなで協力して作れたね。
- ◎ もっとパワーアップさせたものを作って、1年生を楽しませたい。

- ・ もっと丈夫でよく回る風車が作りたいな。
- ・ 色をつけると綺麗な風車になるよ。
- ・ 他の風おもちゃを作りたいな。

- ・ 紙や厚紙で風車を作って遊ぶ。

- 羽根を作ると風車が回ったよ。
- 厚紙の方がしっかりした風車になるよ。
- ◎ 羽根を丈夫にして、同じ大きさに切って折るといいみたいだね。

- ・ 風には強弱や音の違いがあるね。
- ・ 自然の風と人が作る風の2つの風があるね。

- ・ 身の回りの風に触れて風に関心をもつ。

- 風車や洗濯物は風で動くね
- ビューやゴーなどの音があるね。
- ◎ 登下校や遊びの中で風を感じることができるね。

意欲の高まり

- ・ たこあげは楽しかったね。風を使ったおもちゃを作ってみたいな。
- ・ こまランドみたいに1年生を楽しませることを考えたいな。

気づきの質の高まり

7. 単元の目標

【知識及び技能の基礎】

- ・ 自然の風と人が作る風の類似点に気付くことができる。
- ・ おもちゃ作りを通して、風の性質に気付くことができる。
- ・ 手作りおもちゃの楽しさや、工夫して作ることのおもしろさに気付くことができる。
- ・ 友達や1年生と関わることのよさに気付くことができる。

【思考力、判断力、表現力等の基礎】

- ・ 自分の思いや願いを叶えるために、風の力を使ったおもちゃ作りを工夫している。
- ・ 風の力を使ったおもちゃの作り方や遊び方のコツについて、文や言葉、イラストなどでわかりやすく伝えている。
- ・ 1年生に喜んでもらえるような活動を考え、自分の思いを伝えている。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・ おもちゃ作りに興味をもち、進んで作ろうとしている。
- ・ 自分の思いや願いをかなえるために、工夫しておもちゃを作ろうとしている。

8 活動計画と予想される子どもの姿（15時間扱い）

次	時	◇活動計画 ・ 予想される子どもの姿	●手立て ◎評価 ○留意点
第一次 「風って!？」	1 ／ 15	1 組展開 ◇台風の動画を見て、気付いたことを書いて発表する。 ・すごい風だ。自転車とバス停も倒れそう。 ・ビュービュー吹いているね。 ・風には音があるね。 風でどんなことがおこるかな？ ◇知っている風を発表する。 ・扇風機が回ると風が起きるんだね。 ・風鈴や洗濯物が揺れているね。 ・帽子や紙が飛んでいくね。 ◇振り返りをする。 ・強い風と弱い風があるね。 ・風によって音がしたりや動いたりするね。 ・風は起こすこともできるね。 ・風をもっと探したいな。	○子ども達が音に着目できるように、初めは音のない動画を見せ、その後音のある動画を見せる。 ●子ども達が明確に考えをもてる場となるように考えやそれに対するオノマトペを発表させる。－①
	2 ／ 15	強い風と弱い風あって、いろいろな音も聞こえる。 風で物を動かしたり、物で風を起こしたりできる。 風を探してみたいな。 見つけ出せ！風はっ見たい！！ ◇学校内で風を探して確かめたり発見したりする。 ・たくさん風があったよ。 ・扇風機で風を起こせるよ。 ・外の花と葉っぱがゆれていたよ。 ・ビュービューって音が聞こえた。 ・走ると風を感じたよ。 ・風で遊んでみたいな。 風はいろいろな場所で感じたり音が聞こえたりする。 風を作ることができる。 風を使って遊んでみたいな。	○今後のおもちゃ作りの柱となるように項目立てて板書する。 ○子ども達が考えやすいように、身の回りの風を感じる場を設ける。 ◎知っていることを話し合ったり、映像などの資料を見たりする中で、目に見えない風について興味をもつことができるか。 （発言・ワークシート） ○子ども達が考えをもてる場となるように、十分に活動時間をとるようにする。 ●メモができるように学校内地図を渡し、風を発見できるようにする。－① ◎どこにどんな風を見つけたか、自分の言葉で発表したり共有したりできているか。 （発言・ワークシート）

		風車を作って、回してみよう。 3 / 15 ◇風車を作って、回す。 ・羽根を作ってみよう。 ・私は羽根を折ってみたよ。 ・息を吹くと回るね。 ・途中で止まっちゃう。 ・逆回りもするよ。 ・色をつけたらきれいに回るかも。 ・ずっと回したいな。 ・速く回したいな。 ○子ども達が考えをもてる場となるように、十分に活動時間をとるようにする。 ●子ども達が困っている事象を取り上げたり、教師が提示することで自分の考えをもったり、伝えたりできるようにする。－② ◎繰り返し遊ぶ中で、自分の願いを叶えようとしているか。(行動) 羽根を作り、折ってみることで回るようになる。 風があれば回るし、逆回りもできる。 もっと速く回したい。	3組展開 羽根を工夫して風車をパワーアップしよう。 4 / 15 ◇風車をパワーアップさせる。 《大きな折り紙》《小さな折り紙》 《厚紙》《大きな厚紙》《小さな厚紙》 《紙コップ》《紙皿》 ・羽根を小さくすると、軽いから上手くいったよ。 ・紙を丈夫にすると強い風でも羽根が安定していたよ。 ・羽根を細くしすぎると上手くいかなかったよ。やっぱり風が当たる場所の大きさが大事みたいだね。 ・大きな厚紙は重いから上手く回らなかったよ。もっと風が強ければ上手くいくはずだよね。 ●自分の願いや思いを明確にして活動できるようにするために、設計図にかき表したり、パワーアップに選んだものについての理由を書いたりする場を設定する。－② ○子ども達が考えをもてる場となるように、十分に活動時間をとるようにする。 ○早くパワーアップできた子や違う方法でパワーアップしたい子の願いを叶えるために、ワークシートを多めに用意し、色々な方法を試せるようにする。 ◎羽根の形や素材などを工夫して、風車によりよく回るようにすることができる。(行動・発言・カード) 羽根の風の当たるところを大きくしたり、丈夫にしたりすると、風車は速く回る。 今度は風で動く他のおもちゃも作ってみたいな。
--	--	---	--

第二次			
「風とあそぼう」	5 / 15	風のおもちゃを考えよう。 ◇風車の他にはどんな風のおもちゃがあるのかを知る。 ・風の力で進む車があるよ。 ・風の力でいろいろな遊び方ができるね。 ・どうやって作るんだろう。 ・作ってみたいな。 ◇作りたい風のおもちゃの設計図をかく。 ・風の車を作ってみたい。 ・船を作るのが難しそうだけど、作りたいな。 ・設計図は作るときわかりやすいほうがいいね。	○作る風のおもちゃを決めやすくさせるために、例示を準備する。 ●子ども達が興味をもちやすく遊びやすい風のおもちゃを準備し、設計図づくりがしやすいようにする。－① ◎主体的に風のおもちゃの設計図づくりができているか。 (発言・ワークシート)
		風の力を使ったおもちゃはたくさんある。 自分でも作ってみたい。	
		4組展開	
		風のおもちゃを作ろう。 ◇自分で決めた風のおもちゃを作る。 ・見本をよく見て上手に作りたいね。 ・なかなかうまくできないなあ。 ・風がよく当たるように作るとうまくいくよ。 ・〇〇さんのアドバイスでうまく作れた。 ・もっとパワーアップさせたいな。	○例示物を積極的に見たり触ったりするように声をかけて作製に生かす。 ○例示物のそばに材料を準備する。 ○作ったおもちゃを試せる場を設ける。 ●前時で見たものや自分で書いた設計図を参考に風のおもちゃ作りに役立てる。友達のものを見たり工夫を共有したりして自分の風のおもちゃ作りに生かす。－② ◎風の力を使ったおもちゃを作ることができているか。(ワークシート・作製物)
		風のおもちゃを作ることができた。 もっとパワーアップさせたい！	

		風のおもちゃをパワーアップさせよう。 8 ◇自分で作ったおもちゃをパワーアップさせる。 ／ 15 ・どこをパワーアップさせようかな。 ・〇〇さんの工夫がいいね。 ・その工夫まねさせて。 ・ここはこうするとよくなるよ。	○自分の工夫と友達の工夫を共有することを呼びかける。 ○よいパワーアップの仕方を全体で共有する。 ●同じおもちゃ同士の教え合いが活発になるように活動場所を工夫する。－② ◎自分の願いを基に、友達と協力しておもちゃをよりよく作ろうとしているか。 (行動・作製物)
		風のおもちゃをパワーアップさせることができた。 風のおもちゃの発表会をしよう。 9 ◇作ったおもちゃを紹介し合う。 ／ 15 ・作り方や遊び方がわかりやすかった。 ・〇〇さんの工夫がすごい。 ・私と同じ工夫をしていた。 ・特別な作り方をしているね。 ・1学期のこまランドみたいに1年生に教えてあげたいなあ。 ○作り方、遊びのコツ、アピールポイントなどをスムーズに発表できるようにする。 ○発表しやすいように発表用のワークシートを準備する。 ●作ったおもちゃを大型テレビに映しながら発表させる。－② ◎おもちゃの作り方やよさを伝えることができているか。 (発表) 自分で作ったおもちゃをみんなに紹介する事ができた。 みんながそれぞれの工夫をしていた。 風のおもちゃを1年生にも紹介したいな。	

第三次 「風っ子フェスティバル」	10	風っ子フェスティバルをひらこう。	
	11 ・ 12 / 15	◇「風っ子フェスティバル」の計画を立てて準備をする。 ・まずは、遊ぶものの紹介をしよう。 ・つくるコーナーがほしいな。 ・ゲームのルールを考えたほうがいいね。 ・早くゴールした方が勝ちがいいな。 ・動いた長さが長い方が勝ちがいいな。 ・景品があると嬉しいよね。 2組展開 ◇「風っ子フェスティバル」のリハーサルを行う。 ・風車づくりコーナー ・風鈴づくりコーナー ・車競争コーナー ・船競争コーナー ・風相撲コーナー ・メリーゴーラウンドコーナー ・楽しみだな。 ・早くやりたいな。 ・緊張するな。 ◇アドバイスを基にグループで改善する。 ・上手くおもちゃを紹介できたから、次も同じようにやりたいな。 ・うちわの揚げ方も決めた方がよかった。 ・作り方をもっと分かりやすくしたい。 ・ルールを少し変えようかな。	●子ども達同士が学び合うために、同じ担当の子ども同士の座席を近づけるなど、活動場所を工夫するようにする。 —③ ○フェスティバルに親しみがもてるように、コーナーの名前は自分たちで話し合っ て決めるように伝える。 ◎グループで協力して、フェスティバルの計画や準備をしているか。 (行動・ワークシート) ○学級を半分に分け、2年生役と1年生役を両方行えるようにする。 ○付箋を使い、良い点と改善すべき点を書きながら、グループを回るようにする。 ○空いているところへ進んで回っていけるように声を掛ける。 ○良い点や改善点を書くことが苦手な児童は、一緒に考えてどちらかだけでも書けるようにする。 ●改善すべき点に気付かせるために、グループでの話し合いの時間を確保する。—③ ○振り返りは、一人一人ワークシートに書かせる。 ◎遊び手からのアドバイスを基にして、1年生により喜んでもらうための方法に気付くことができたか。 (ワークシート・行動)
		友達のおもちゃで遊べて楽しかった。 リハーサルをやったら、前よりも良くなったな。 たくさん1年生が来てくれるといいな、喜んでもらいたいな。	

14 ／ 15	◇1年生と「風っ子フェスティバル」を行う。 ・1年生に教えるのは、やっぱり楽しいなあ。 ・ルールを守って遊んでもらえたよ。 ・1年生がいっぱい来てくれたよ。	●意欲的に1年生と交流できるようにするために、一人一人が1年生と関わられるような場づくりをする。－③ ◎友達や1年生と意欲的に関わろうとしているか。(行動)
15 ／ 15	◇「風っ子フェスティバル」を振り返る。 ・友達や1年生が喜んでくれてうれしかった。 ・もっとやりたかったな。 ・くるくるこまランドよりも、1年生が来てくれて嬉しかったな。 ・自分が作ったおもちゃでこんなに楽しんでもくれるなんて思わなかったよ。 ・もっといろいろなおもちゃを作りたいな。	●今までの活動を振り返らせるために、項目を立てた振り返りシートを用意する。－③ ◎風のおもちゃ作りを通して、人との関わりや人に伝えることの大切さに気付いているか。(振り返りシート・発表)
友達や1年生に、おもちゃを紹介できて良かったな。 楽しく遊んでくれて、うれしかった。 つくったものを喜んでくれてうれしかった。 これからも、もっともっといろいろなおもちゃを作ってみたいな。		

9 本時の指導（1／15）

指導者 1組 甲斐 聖哉

（1）目標

- ・知っていることを話し合ったり、映像などの資料を見たりする中で、目に見えない風について興味をもつことができる。

（2）めざす姿を達成するための手立て

- ・子ども達が明確に考えをもてる場となるように考えやそれに対するオノマトペを発表させる。

－①

（3）展開

時配	学習活動と内容 予想される子どもの反応	●手立て ◎評価 ○留意点
10	1 台風の動画を見て気付いたことを書いて発表する。 ・すごい風だ。 ・自転車が倒れそう。 ・バス停の看板が倒れそう。 ・ビュービュー吹いているね。 ・風には音があるね。	○子ども達が音に着目できるように、初めは音のない動画を見せ、その後音のある動画を見せる。 ●子ども達が明確に考えをもてる場となるように考えやそれに対するオノマトペを発表させる。
3	2 本時のめあてを確認する。 風でどんなことがおこるかな？	
25	3 風について知っていることを書いて発表する。 ・扇風機で風を起こしているね。 ・ヘリコプターでも風を起こせるね ・回ると風が起きるんだね、風車と一緒にだ。 ・風鈴や洗濯物が揺れているね。 ・カーテンも揺れているよ。 ・帽子や紙が飛んでいくね。 ・窓を少し開けると、ヒューヒューって音もするよ。	○今後のおもちゃ作りの柱となるように項目立てて板書する。 ○子ども達が考えやすいように、身の回りの風を感じる場を設ける。 ◎知っていることを話し合ったり、映像などの資料を見たりする中で、目に見えない風について興味をもつことができるか。 （発言・ワークシート）
7	4 振り返りをする。 ・強い風と弱い風は体で感じるができるね。 ・風って色々な音もするね。 ・風で動く物があるね。 ・風は起こすこともできるね。 ・風をもっと探したいな。	○次時につなげるように、願いを書かせるようにする。

	強い風と弱い風あって、いろいろな音も聞こえる。 風で物を動かしたり、物で風を起こしたりできる。 風を探してみたいな。
--	--

(4) めざす子ども像についての達成度

達成規準	達成基準	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する
	知っていることを話し合ったり、映像などの資料を見たりする中で、目に見えない風について興味をもつことができる。	知っていることを話し合ったり、映像などの資料を見たりする中で、目に見えない風について興味をもち、友達に伝えることができる。	知っていることを話し合ったり、映像などの資料を見たりする中で、目に見えない風について興味をもつことができる。	子ども達が明確に考えをもてる場となるように考えやそれに対するオノマトペを発表させる。 (手立て)

(5) 板書計画


かぜ
 風でどんなことがおこるかな？

音

- ・ビュービュー
- ・ゴーゴー

まわる

- ・せんぷうき
- ・風車

たおれる

- ・自転車
- ・木

ゆれる

- ・せんたくもの
- ・ふうりん
- ・バスていのかんばん
- ・けいじぶつ (紙)
- ・カーテン
- ・かみの毛

とぶ

- ・ぼうし
- ・紙
- ・かさ
- ・はっぱ
- ・すな

そのた

- ころがる
- うごく
- ・えんぴつ
- ・ボール

強い風と弱い風あって、いろいろな音も聞こえる。

風で物を動かしたり、物で風を起こしたりできる。

風を探してみたいな。

（1）目標

- ・羽根の形や素材などを工夫して、風車がよりよく回るようにすることができる。

（2）めざす姿を達成するための手立て

- ・自分の願いや思いを明確にして活動できるようにするために、設計図にかき表したり、パワーアップに選んだものについての理由を書いたりする場を設定する。

ー②

（3）展開

時配	学習活動と内容 予想される子どもの反応	●手立て ◎評価 ○留意点
2	1 本時のめあてを確認する。 ・もっと速く回る風車を作りたいな。 ・羽根を大きくしたいな。	○子ども達が意欲的に活動できるように前時に出的願いを振り返らせる。
	羽根を工夫して風車をパワーアップしよう。	
10	2 パワーアップするための設計図をかく。 ・羽根を大きくしたいな。 ・画用紙だと重いから、軽い紙を使いたい。 ・羽根を小さくした方が安定すると思う。 ・紙コップで作ると風が入り込むんじゃないかな。 ・紙皿を使うといっぱい羽根が作れていいと思うよ。	○子ども達が素材を選択できるように提示したり、板書したりする。 ●自分の願いや思いを明確にして活動できるようにするために、設計図にかき表したり、パワーアップに選んだものについての理由を書いたりする場を設定する。
20	3 風車をパワーアップさせる。 《大きな折り紙》 《折り紙》 《小さな折り紙》 《大きな画用紙》 《小さな画用紙》 《大きな厚紙》 《厚紙》 《小さな厚紙》 《紙コップ》 《紙皿》	○子ども達が考えをもてる場となるように、十分に活動時間をとるようにする。 ○早くパワーアップできた子や違う方法でパワーアップしたい子の願いを叶えるために、ワークシートを多めに用意し、色々な方法を試せるようにする。 ○上手くパワーアップできた子を取り上げることで、自分も風車をパワーアップさせたいという願いをもてるようにする。 ○友達のことともワークシートに書かせることで友達との関わり合いを意識させる。



画用紙



折り紙



紙皿

10	4 話し合う。 ・羽根を大きくすると、たくさん風が当たるから上手くいったよ。 ・紙を丈夫にすると強い風でも羽根が安定していたよ。〇〇さんみたいに羽根を大きくしたら、さらにパワーアップするかもしれないね。 ・羽根を細くしすぎると上手くいかなかったよ。やっぱり風が当たる場所の大きさが大事みたいだね。 ・大きな厚紙は重いから上手く回らなかったよ。でも風を強くすると上手くいくね。 ・送風機を使うと、音の大きさでよく回るかが分かるね。	○強い風が使いたい子どもの願いを叶えるために、あらかじめ送風機を用意しておく。 ○どの風車が良く回るのかを比較しやすいように、音に注目させるような声かけをする。 ○先に上手く行った子を取り上げることで、なぜ上手く行ったのかを子ども達が話し合いやすくする。 ○子ども達が明確に考えをもてる場となるように考えに対する理由も発表できるようにする。 ○羽根は風が当たる場所だということを再確認することで、風に対する意識を高めるようにする。 ○子ども達が困っている事象を取り上げたり、教師が提示することで自分の考えをもったり、伝えたりできるようにする。 ◎羽根の形や素材などを工夫して、風車がよりよく回るようにすることができるか。 (行動・発言・カード) ○自分なりの風車のパワーアップの方法を書かせることで、より明確に自分の考えがもてるようにする。 ○次時につながるように、自分の願いをワークシートに書かせるようにする。
3	5 振り返りをする。 ・風の当たるところを大きくするといいね。 ・〇〇さんの言っていた紙の丈夫さも大事だったよ。	
羽根の風の当たるところを大きくしたり、丈夫にしたりすると、風車は速く回る。今度は風で動く他のおもちゃも作ってみたいな。		

(4)めざす子ども像についての達成度

達成規準	達成基準	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する
羽根の形や素材などを工夫して、風車がよりよく回るようにすることができる。		友達の考えと比較しながら羽根の形や素材などを工夫して、風車がよりよく回るようにすることができる。	羽根の形や素材などを工夫して、風車がよりよく回るようにすることができる。	自分の願いや思いを明確にして活動できるようにするために、設計図にかき表したり、パワーアップに選んだものについての理由を書いたりする場を設定する。 (手立て)

(5) 板書計画

<みんなのねがい> ・もっとはやく回る風車を作りたい。 ・はねを大きくしたい。 <つかえるもの> ・大きなおり紙・おり紙・小さなおり紙 ・大きな画用紙・小さな画用紙 ・大きなあつ紙・あつ紙・小さなあつ紙 ・紙コップ・紙ざら	④ はねを工夫して風車をパワーアップしよう。 <たぶん> ・おり紙→かるい ・大きな画用紙→風があたる ・紙ざら→はねがたくさん ① はねを大きく→風がいっぱいあたる ① あつ紙→じょうぶ、あんてい ① 紙コップ→風が入る ① 紙ざら→はねを細くする× 風がぬける
	⑤ はねの風の当たるところを大きくしたり、じょうぶにしたりすると、風車ははやく回る。 ⑥ 風で動く他のおもちゃも作ってみたいな。

(1) 目標

- ・風の力を使ったおもちゃを作ることができる。

(2) めざす姿を達成するための手立て

- ・前時で見たものや自分で書いた設計図を参考に風のおもちゃ作りに役立てる。友達の作ったものを見たり工夫を共有したりして自分の風のおもちゃ作りに生かす。 ー②

(3) 展開

時配	学習活動と内容 予想される子どもの反応	●手立て ◎評価 ○留意点
5	1 前時の学習を振り返る。 ・風の車の設計図をかいたよ。 ・風車を作りたいな。 ・パラシュートを作りたいな。 ・船を作りたいな。 例示物 	○スムーズにおもちゃ作りが進むように、例示物となる風のおもちゃを準備したり、タブレットでおもちゃの作り方を共有したりする。 ○同じ風のおもちゃを作る人同士でグループを作り、考えや作り方の話し合いがしやすいようにする。 ○例示物を積極的に見たり触ったりするように声をかけて作製に生かす。 ○例示物のそばに材料を準備する。
5	2 本時のめあてを確認する。 風のおもちゃを作ろう。	
30	3 風のおもちゃ作りをはじめる。 ・風の車が順調に出来上がってきたよ。 ・一度船を水に浮かべてみたいな。 ・風車がうまく回らないなあ。 →・少し斜めにするとうまくいくよ。 ・パラシュートがうまく飛ばない。 →・袋に風が入るようにするといいよ。 ・風の車がよく進むように作れた。 ・そうやって作るとうまくいくね。まねしてみる。 ・ここをこうするとうまく作れるよ。 ・ほんとだ。○○さんすごい！	●前時で見たものや自分で書いた設計図を参考に風のおもちゃ作りに役立てる。友達の作ったものを見たり工夫を共有したりして自分の風のおもちゃ作りに生かす。 ー② ○うまく進まない子には同じおもちゃの友達の作り方を聞くことを呼びかける。 ○うまく進んでいる子のおもちゃを大型テレビで映して紹介する。

5	4 振り返りをする。 ・うまく風のおもちゃが作れました。 ・〇〇さんのアドバイスでうまくできました。 ・もっとパワーアップしてみたいです。	◎風の力を使ったおもちゃを作ることができているか。 (ワークシート・作製物)
風のおもちゃを作ることができた。 もっとパワーアップさせたい。		

(4) めざす子ども像についての達成度

達成規準	達成基準	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する
	前時までの既習や設計図をもとに、風の力を使ったおもちゃを作ることができる。	前時までの既習や設計図をもとに、風の力を使ったおもちゃを作り、自分の工夫を友だちに伝えたり発表したりすることができる。	前時までの既習や設計図をもとに、風の力を使ったおもちゃを作ることができる。	前時で見たものや自分で書いた設計図を参考に風のおもちゃ作りに役立てる。友達の作ったものを見たり工夫を共有したりして自分の風のおもちゃ作りに生かす。(手立て)

(5) 板書計画

風とあそぼう

○何を作るか。

- ・風の車
- ・風車
- ・船

風のおもちゃを作ろう。

風の車

- ・タイヤの付け方
- ・うまく進まない

船

- ・風の当たり方
- ・大きく作りたい

風車

- ・くるくる回った
- ・ななめにする

パラシュート

- ・うまく飛ばない
- ・風が入るように

風鈴

- ・いい音がした
- ・風を当てる

メリーゴーラウンド

- ・うまく回った
- ・風が弱いとダメ

みんなのねがい

- ・もっと話し合いながら作りたい。
- ・パワーアップさせたい



風のおもちゃを作ることができた。

もっとパワーアップさせたい。

（1）目標

- ・遊び手からのアドバイスを基にして、1年生により喜んでもらうための方法に気付くことができる。

（2）めざす姿を達成するための手立て

- ・改善すべき点に気付かせるために、グループでの話し合いの時間を確保する。－③

（3）展開

時配	学習活動と内容 予想される子どもの反応	●手立て ◎評価 ○留意点
2	1 本時のめあてを確認する。	○次時を想定し、めあてを明確にする。
	1年生にもっとよろこんでもらうためにはどうしたらいいかな。	
28	2 リハーサルを行う。  車競争コーナー  船競争コーナー  風車づくりコーナー  風相撲コーナー  風鈴づくりコーナー  メリーゴーラウンドコーナー ・楽しみだな。 ・早くやりたいな。 ・緊張するな。	○学級を半分に分け、2年生役と1年生役を両方行えるようにする。 ○付箋を使い、良い点と改善すべき点を書きながら、グループを回るようにする。 ○空いているところへ進んで回っていけるように声を掛ける。 ○良い点や改善点を書くことが苦手な子は、一緒に考えてどちらかだけでも書けるようにする。
10	3 アドバイスを基にグループで改善する。 ・上手くおもちゃを紹介できたから、次も同じようにやりたいな。 ・うちわの揚げ方も決めた方がよかった。 ・作り方をもっと分かりやすくしたい。 ・ルールを少し変えようかな。	●改善すべき点に気付かせるために、グループでの話し合いの時間を確保する。

5	4 振り返りをする。 ・これでもっと1年生を喜ばせられそうだな。 ・友達のおもちゃで遊べて嬉しかった。 ・友達のアドバイスがうれしかった。 ・〇〇さんのおもちゃがよかったよ。 ・こまランドよりも、1年生に喜んでほしいな。	○振り返りは、一人一人ワークシートに書かせる。 ◎遊び手からのアドバイスを基にして、1年生により喜んでもらうための方法に気付くことができたか。（ワークシート・行動）
	友達のおもちゃで遊べて楽しかった。 リハーサルをやったら、前よりも良くなったな。 たくさん1年生が来てくれるといいな、喜んでもらいたいな。	

(4) めざす子ども像についての達成度

達成規準	達成基準	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する
遊び手からのアドバイスを基にして、1年生により喜んでもらうための方法に気付くことができる。		遊び手からのアドバイスを基にして、1年生により喜んでもらうための方法に気付く、進んでグループの友達に伝えることができる。	遊び手からのアドバイスを基にして、1年生により喜んでもらうための方法に気付くことができる。	改善すべき点に気付かせるために、グループでの話し合いの時間を確保する。（手立て）

(5) 板書計画

1年生にもっとよろこんでもらうためにはどうしたらいいかな。

→やさしく！？
くわしく！？
よいところ
かいぜんするところ


車競争コーナー

スタートのやり方をかえた。


メリーゴーラウンドコーナー

作り方をくわしくした。


風鈴づくりコーナー

あおぎ方をかえた。


船競争コーナー

ルールをかえた。


風車づくりコーナー

そのままでもいいかな。


風相撲コーナー

ルールをかえた。

友達のおもちゃで遊べて楽しかった。

リハーサルをやったら、前よりも良くなったな。

たくさん1年生が来てくれるといいな、楽しんでももらいたいな。

2年—21